

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
自然を愛し、自ら考え行動する 心あたたかい成名っ子の育成 ○自分で考えねばり強くがんばる子 ○素直で思いやりのある子 ○体をきたえる元気な子	1 基礎学力の充実を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。 2 一人一人のよさを生かしながら、自主的・創造的な活動の推進を図る。 3 人権尊重の精神を養い、互いに励まし合って向上しようとする態度を育てる。 4 自然体験を重視し、たくましい心身の育成と体力の向上に努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<b>【学力状況調査の結果】</b> ○3年生 ・国語、算数ともに全国平均を下回っている。 ・国語では「話の内容を聞き取る」「作文」に課題がある。また、関心・意欲においても全国平均より低い。 ・算数では「10000までの数・分数」「長さとかさ」に課題がある。 ○4年生 ・国語、算数ともに全国平均を上まわっており、おおむね良好な状況である。 ○5年生 ・国語は、全国平均を下回り課題があるが、活用問題については、ほぼ全国平均でありおおむね良好である。 ・「言語についての知識・理解・技能」に課題があり、漢字を書く、読む問題が全国と比較して低い。 ・算数は、全国平均を下回っている。 ・「億と兆・がい数の表し方」と「小数」に課題がある。 ○6年生 ・国語・算数ともに全国平均を上回り、良好な状況である。	<b>【学習状況調査の結果】</b> ○学級の話し合い活動の中で、課題解決に向けて、情報収集、整理、発表などの学習活動に取り組んでいる児童が、県と比較してかなり高い。○家庭学習については、平日に1時間以上勉強する児童の割合は県平均より高く、予習や復習をしている割合も高い。 ○土日等の休日については、1時間以上勉強している児童の割合が、県平均よりかなり低い。 ○授業以外に30分以上読書をする児童の割合は県平均と比較して高いが、「読書がすき」と回答している児童の割合は低い。 ○テレビやスマートフォン等、1日あたりのメディアと関わる時間は県と比較して少ないが、家庭で使用についてのルール作りをしている割合は低い。 ○地域行事や地域でのボランティア活動等に参加している児童の割合は、県と比較して高いが、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童の割合は低い。 ○近所の人にあいさつをしている児童が、県と比較して低い。 ○「自分には良いところがある」「友達や家族、先生から認められている」と感じてる児童の割合が、県と比較してやや低い傾向にある。

成果	課題
○授業改善 ・授業はじめにめあてやねらいが示され、最後に学習の振り返り活動を行う授業形態が定着してきている。 ・授業では、発表の機会や話し合い活動が保障されている。 ○補充学習等 ・朝学習、放課後学習の取組は充実してきており、基礎学力の定着につながっている。 ○家庭学習 ・家庭学習カレンダー等の取組により、宿題をする、予習、復習をするなど、家庭学習の習慣が定着してきている。	○低学年からの基礎学力の定着 ○土日等、休日の家庭での過ごし方 ○自己肯定感の向上

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○基礎学力の定着に向けた授業改善	年度末	・授業がわかる、楽しいと感じる児童の割合 90%	・学習規律の徹底 ・視覚支援のあるわかる授業づくり・ICT機器の活用 ・少人数指導の充実(多様な学びの保障)	少人数指導により、自信を持って学級での授業に参加できている。国語・算数を中心に、ほぼ毎日ICTを活用できているが、授業がわかる、楽しいと感じる児童の割合は78%だった。	C	授業がわかる・楽しいと感じる児童の割合は横ばいであったが、ICT機器の活用や少人数指導の充実により、児童の意欲の高まりを感じられた。特に、低学年への視覚支援は非常に効果的だった。	B	ICT機器の活用法の研修を重ね、より効果的な視覚支援を行うことで、児童の「わかる・楽しい」授業につなげたい。
○個に応じた学習支援 ※つまづきの解消と学び直し	年度末	・学習内容の定着 60%	・問題データベース等を活用した朝学習・放課後学習 ・学習支援員の支援内容の明確化	問題データベース等を活用して、朝学習・放課後学習を計画的に行った。学力の向上は、県学力テストの結果と比較して、横ばいである。	C	放課後学習や個別の指導により、全児童が65%以上の学習内容の定着が見られた。	B	学年による学力差が見られるため、支援内容のより明確な計画が必要である。基礎学力はおおむね定着が見られるので、応用的な問題にも対応できるように学習を取り入れていきたい。
○家庭での過ごし方	年度末	・1日あたりのテレビ・ゲーム等に関わる時間を1時間以内にする。 70%	・家庭学習カレンダーの活用 ・教育相談等による家庭との連携 ・にこにこ成名っ子カードの活用	家庭学習カレンダーやにこにこ成名っ子カードの取組により、テレビ・ゲーム等に関わる時間は平日はおおむね1時間以内である。また、土日も、1時間以内の児童が全体の半数以上になり、著しく向上した。	C	毎学期1回の取組を行った結果、年間を通してテレビ・ゲーム等に関わる時間が1時間以内の児童が半数だった。ただし、土日の1時間以内の児童は、目標におおむね達した。	B	学年が上がるにつれて、テレビ・ゲーム等に関わる時間や目標設定の時間が上がる傾向にあるので、取組み方に工夫が必要である。

※達成度 「S: 目標を大きく上回った(100%超)」「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○学びの基本を進める。 ・笑顔であいさつ ・チャイムスタート ・メディアの有効活用	○「家庭学習カレンダー」の活用についての家庭用チラシの作成配布や個人懇談、教育相談等を活用して家庭学習の充実を図る取組への理解と協力を得る。 ○「にこにこ成名っ子カード」による生活習慣の改善を図る取組への理解と協力を得る。